

教育費負担と奨学金制度のあり方に関するアンケート調査 (高校調査) 集計結果

2018 年 3 月 14 日

現在、日本では高校卒業者の 7 割が大学もしくは専門学校に進学しております。しかし、大学や専門学校では、授業料が年間 50 万円から 150 万円程度かかるという現実があります。このような現状の中、本調査では、高等学校 (中等教育学校を含む) の状況や教育費負担に対するお考えをうかがうことを通じて、大学進学のための経済的負担の現状について改善の方策を提言していきたいと考えています。

- 本調査で得られた情報は上記の調査目的以外には一切使用いたしません。また、調査終了後は速やかに廃棄・消去いたしますので、皆さまにご迷惑をおかけすることはありません。
- お答えいただきましたご回答はすべて統計的に処理いたします。例えば、「××の質問で〇〇と答えた回答者数は全体の何パーセント」といった集計をいたします。学校名や個々の回答内容等を外部に公表することはありません。ご心配なくご回答ください。
- 経済的支援というテーマの関係上、踏み込んだ状況をお尋ねしております。答えにくい設問は空欄でも結構です。差し支えない範囲でお答えください。

なお、調査の実施は、60 年以上にわたり世論調査、学術調査などを手がけている一般社団法人 中央調査社に委託しました。調査結果を取りまとめる関係上、勝手ながら **8 月 10 日 (木)** までに、同封いたしました返信用の封筒で、ご返送ください。ご協力をお願いいたします。

調査の概要

調査期間：2017 年 7 月～8 月

調査方法：東京都・青森県に立地する高等学校・中等教育学校 (後期課程) に悉皆で依頼

送付件数：522 校 (青森県 78 校、東京都 444 校)

有効回答数・回答率：163 校 (青森県 41 校、東京都 122 校)・31.2%

A. まず、貴校についてお伺いします (集計結果の分析以外には利用しません)。

F 1 貴校の設置形態について、以下のなかからお選びください。(○は 1 つ) **N=163 (以下、同じ)**

1 国立 (国立大学法人立)	2.5 %	4 私立 (学校法人立)	43.6 %
2 公立 (都道府県立)	54.0 %	5 私立 (株式会社立)	0.0 %
3 公立 (市区町村立)	0.0 %		

F 2 貴校の在学学生 (中等教育学校の場合は後期課程) の総数について、以下のなかからお選びください。
(○は 1 つ)

1 100 名未満	5.5 %	4 300～399 名	4.9 %	7 600～699 名	6.7 %	10 900 名以上	27.0 %
2 100～199 名	3.1 %	5 400～499 名	10.4 %	8 700～799 名	16.0 %		
3 200～299 名	6.1 %	6 500～599 名	11.7 %	9 800～899 名	8.6 %		

F 3 貴校に設置されている学科について、あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1 普通	82.8 %	4 商業	3.7 %	7 看護	0.6 %	10 その他	9.2 %
2 農業	3.7 %	5 水産	0.6 %	8 情報	2.5 %	(具体的に	)
3 工業	4.3 %	6 家庭	2.5 %	9 総合	3.7 %		

F 4 貴校の平成 29 年 3 月卒業生の進路状況について、教えてください。

(1) から (4) のそれぞれの進路について、あてはまる状況に○をつけてください。(それぞれ 1 つに○)

	ほぼ 全員	8 ～ 9 割 程度	6 ～ 7 割 程度	4 ～ 5 割 程度	2 ～ 3 割 程度	(ほと んど い ない) 1 割 程度	い ない	わ か ら な い 不 明 ・	無 回 答
(1) 国公立大学	1.2	0.0	2.5	4.3	16.6	49.1	20.2	0.0	6.1
(2) 私立大学	3.1	25.8	20.9	15.3	20.2	10.4	0.6	0.0	3.7
(3) 短期大学・専門学校	0.0	0.0	0.6	10.4	22.1	42.9	16.0	0.0	8.0
(4) 就職	0.6	1.8	8.6	4.9	5.5	39.9	30.1	0.6	8.0

単位 (%)

F 5 貴校では、昨年度 (平成 28 年度)、次の状況に当てはまる在学生は、どの程度いましたか。

(1) から (7) それぞれについて、あてはまる状況に○をつけてください。(それぞれ 1 つに○)

	い ない	1 人 程 度	2 ～ 5 人	6 ～ 10 人	11 ～ 15 人	16 人 以 上	わ か ら な い 不 明 ・	無 回 答
(1) 何らかの奨学金を受給していた生徒	4.2	4.9	21.5	14.7	12.9	27.6	9.8	4.3
(2) 生活保護受給家庭の生徒	20.2	4.9	12.3	6.7	3.7	10.4	34.4	7.4
(3) 社会福祉施設の出身・在籍の生徒	52.1	11.0	11.7	1.2	0.0	0.0	19.0	4.9
(4) 母子福祉寡婦福祉資金の受給世帯の生徒	22.1	4.9	9.8	0.6	0.0	0.6	55.2	6.7
(5) 経済的理由で中退した生徒	82.8	3.1	1.8	0.6	0.0	0.0	8.0	3.7
(6) 経済的理由で大学等への進学を断念した生徒	36.8	8.0	9.2	3.7	0.0	1.2	35.0	6.1
(7) 大学等への進学時に日本学生支援機構の 予約採用の奨学金を利用した生徒	4.9	3.1	16.6	8.0	9.2	47.9	7.4	3.1

単位 (%)

※本調査では「大学」とは4年制大学を指します（短期大学や大学院、高等専門学校を含めずお考えください）。

B. 教育費の現状やその負担のあり方について、お考えをうかがいます（校長先生個人のお考えで結構です）。

Q 1 高校卒業後に大学等に進学した場合の教育費の現状について、どのように思われますか。

（それぞれ1つに○）

	安い	やや安い	妥当である	やや高い	高い	わからない	無回答
(1) 国立大学の入学料（1年目のみ払うお金）：28万円	3.7	3.1	28.8	33.1	25.2	3.7	2.5
(2) 国立大学の年間授業料：54万円	5.5	7.4	28.8	28.8	23.3	4.3	1.8
(3) 私立大学・短大の入学料：25万円	2.5	3.1	44.8	26.4	18.4	3.1	1.8
(4) 私立大学（文系）の年間平均授業料：75万円	1.2	2.5	25.8	37.4	27.6	3.1	2.5
(5) 私立大学（理系）の年間平均授業料：105万円	0.6	2.5	14.7	27.6	48.5	3.1	3.1
(6) 私立短期大学の年間平均授業料：70万円	0.6	1.2	22.1	35.0	31.9	5.5	3.7
(7) 私立専門学校の年間平均授業料：70万円	0.6	1.8	19.6	33.1	35.6	5.5	3.7

単位（％）

Q 2 大学に入学してから卒業するまでに、大学に支払う学費（入学金や授業料、施設利用費など全ての金額）の総額として、妥当な金額であろうと考えるのはいくらくらいですか。（それぞれ1つに○）

	無料	50万円程度	100万円程度	150万円程度	200万円程度	250万円程度	300万円程度	350万円程度	400万円程度	450万円程度	500万円程度	550万円程度	600万円程度	650万円以上	わからない	無回答
(1) 国立大学（文系）	9.8	6.7	13.5	9.8	20.2	12.3	11.0	2.5	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	7.4	2.5
(2) 国立大学（理系）	9.8	5.5	10.4	8.0	15.3	14.1	12.9	4.3	5.5	1.2	2.5	0.0	0.0	0.6	7.4	2.5
(3) 国立大学（医療系）	8.0	2.5	9.8	3.7	11.7	7.4	16.0	4.3	6.7	0.6	8.0	0.0	4.9	1.8	11.0	3.7
(4) 私立大学（文系）	2.5	5.5	6.1	3.1	20.2	8.0	19.0	6.7	11.7	3.7	1.2	0.0	0.6	0.6	8.6	2.5
(5) 私立大学（理系）	2.5	4.3	4.9	3.7	9.2	11.7	14.1	7.4	14.1	4.9	9.2	1.2	0.6	1.2	8.6	2.5
(6) 私立大学（医療系）	2.5	1.8	4.9	0.6	6.1	4.9	12.3	4.9	6.7	2.5	11.0	1.2	11.0	12.9	13.5	3.1

単位（％）

Q3 教育費負担のあり方に関する次のような意見について、どのように思われますか。(それぞれ1つに○)

	賛成である	どちらかといえ 賛成である	どちらとも いえない	どちらかといえ 反対である	反対である	無回答
(1) 大学までの学費・授業料は税金で無料とするべきだ。	12.3	19.0	31.3	21.5	16.0	0.0
(2) 大学までの教育費は家族・保護者が負担するべきだ。	6.7	22.1	42.9	19.6	8.6	0.0
(3) 大学の学費は、学生が自分で支払う・負担する仕組みにするべきだ。	4.9	10.4	33.7	24.5	25.8	0.6
(4) 大学までの教育費を軽減するためなら、税金を値上げしてもよい。	7.4	21.5	33.7	19.6	17.8	0.0
(5) 国公立大学と私立大学の学費の格差はなくすべきだ。	13.5	23.9	25.2	26.4	11.0	0.0
(6) 大学を無料にするより、幼稚園・保育園を無料にするべきだ。	25.2	29.4	33.7	5.5	6.1	0.0
(7) 国立大学も私立大学のように、大学・学部別で学費を変えるべきだ。	7.4	32.5	30.7	10.4	18.4	0.6
(8) 都市部在住者の税金で、地方在住者の教育費負担を軽減するべきだ。	3.1	9.8	38.0	31.3	17.8	0.0
(9) 高所得者や企業に多くの税金をかけて教育費負担を軽減するべきだ。	14.7	36.8	28.2	12.9	7.4	0.0
(10) 祖父母世代から孫への教育資金の贈与を行いやすくするべきだ。	30.7	42.9	22.1	1.2	3.1	0.0
(11) 奨学金は、進学前（高校在学中）に採否が決まる予約型が望ましい。	24.5	33.7	34.4	6.1	0.6	0.6
(12) 貸与型奨学金は、卒業後、所得に応じて返済する仕組みが望ましい。	23.3	42.3	24.5	4.9	4.9	0.0

単位 (%)

Q4 教育費負担のあり方に関する次のような意見について、どのように思われますか。(それぞれ1つに○)

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
(1) 大学は行きたい人が行くところなので、その費用は自分で負担するべきだ。	11.7	38.7	22.7	17.2	9.8	0.0
(2) 大学卒業者は、就職機会や給与条件などで利益を得るので、大学進学 の費用は自分で負担するべきだ。	10.4	24.5	30.1	23.9	11.0	0.0
(3) 大学進学者を税金で支援することは、進学しない人に対して不公平だ。	11.0	25.2	22.1	26.4	15.3	0.0
(4) 現在の日本は高卒での就職は厳しいので、大学進学を広く支援するべきだ。	9.2	28.8	31.9	18.4	10.4	1.2
(5) 進学や教育費負担は家族の問題なので、税金で支援するのはおかしい。	5.5	15.3	25.8	34.4	19.0	0.0
(6) 国の財政は赤字で財源はないのだから、教育費支援を行うべきではない。	2.5	6.7	26.4	28.8	35.0	0.6
(7) 大学生は十分勉強していないのだから、税金で支援するのはおかしい。	4.3	8.6	36.8	26.4	23.9	0.0
(8) 大学生の数が多すぎるので、大学生を税金で支援するのは適切ではない。	3.7	21.5	31.9	26.4	16.6	0.0
(9) これまで支援を受けていない世代から見ると不公平なので、今後も大学の 学費を支援するのは適切ではない。	3.7	8.6	26.4	32.5	28.8	0.0
(10) 教育の機会は誰にでも保証されるべきなので、税金で負担軽減するべきだ。	18.4	38.7	25.8	12.3	4.9	0.0
(11) 大学の学費は、全員、卒業後に所得に応じて事後に支払う方式が望ましい。	4.3	12.9	47.2	19.0	16.6	0.0

単位 (%)

Q5 大学の学費や国の奨学金制度のあり方について、次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか。
(1)～(6)それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

		Aに近い	どちらか Aに近い	どちらか Bに近い	Bに近い		無回答
	<Aの考え方>					<Bの考え方>	
(1)	国の奨学金は、多くの学生に少額でも行き渡るようにするほうがよい。	11.7	36.2	38.7	13.5	国の奨学金は、受けられる学生を選別して、少人数に多額の支援をするほうがよい。	0.0
(2)	国の奨学金は貸与として、卒業後に学生が返済する仕組みがよい。	11.7	30.1	36.8	21.5	国の奨学金は給付にして、返済しなくともよい制度にするのがよい。	0.0
(3)	国の奨学金は、高い学力や能力がある学生を対象とするべきだ。	14.1	26.4	42.9	16.6	国の奨学金は、経済的に厳しい家庭であれば、学力にかかわらず誰でも利用できるようなすべきだ。	0.0
(4)	国の奨学金は、学生が安心して勉強できるように、学費だけでなく生活費も含めて支援するべきだ。	6.1	30.1	43.6	19.0	生活費は、自分で何とかするべきものであり、国の奨学金に頼るのはおかしい。	1.2
(5)	借りた奨学金を返済しない者には、裁判を含め、厳しく取り立てるべきだ。	9.2	25.2	49.1	16.6	借りた奨学金を返済しない者には、個々の事情にあわせて柔軟に対応するべきだ。	0.0
(6)	国の奨学金は、社会に必要な職業の人材養成を目的とするべきだ。	8.0	18.4	53.4	20.2	国の奨学金は、誰もが教育を受けられることを目的とするべきだ。	0.0

単位 (%)

Q6 2014年4月から導入されている高等学校等就学支援金(2010年度からの公立高等学校授業料無償制・高等学校等就学支援金制度を含む)について、どのような効果があったと思われますか。それぞれ1つに○をつけてください。また、(1)～(8)の他に、この制度の効果や課題として思われることがあれば、(9)の欄に記入してください。

	効果があつた	少しは 効果があつた	どちらとも いえない	あまり 効果はなかつた	効果はなかつた	わからない	無回答
(1) 経済的理由による高校中退の予防・減少	17.2	43.6	19.0	6.1	4.9	9.2	0.0
(2) 高校進学促進(経済的理由による高校進学断念者の減少)	17.8	34.4	20.2	9.8	3.7	14.1	0.0
(3) 生徒の日常生活の安定	9.8	42.9	25.8	9.8	1.8	9.2	0.6
(4) 生徒の学業に取り組む姿勢の改善	3.1	14.7	34.4	23.9	13.5	10.4	0.0
(5) 高校卒業後の大学・短大・専門学校等進学者の増加	3.7	25.2	40.5	10.4	7.4	12.9	0.0
(6) 部活動・課外活動の活性化	1.8	20.2	42.9	14.7	8.6	11.7	0.0
(7) 高校在学中のボランティア活動・社会的活動の活性化	1.2	10.4	42.3	21.5	9.8	14.7	0.0
(8) 生徒の問題行動の減少	2.5	8.6	42.3	22.1	9.8	14.7	0.0
(9) (1)～(8)の他に、効果や課題として思われることがあれば自由に記入してください。 4.9%							

単位 (%)

C. 国による大学・短大・専門学校進学者・在学者（以下、大学生等）を対象とする給付型奨学金（あとで返済しないでよい奨学金）のあり方について、お考えをうかがいます。（校長先生個人のお考えで結構です）。

Q 7 国が、税金を用いて大学生等を対象とした給付型奨学金（あとで返済しないでよい奨学金）を運営する場合、そのあり方に対する次のような意見について、どのように思われますか。それぞれ1つに○をつけてください。

	賛成である	どちらかといえ 賛成である	どちらとも いえない	どちらかといえ 反対である	反対である	無回答
(1) 対象者を高校での学力が優秀な学生のみに限定する。	5.5	33.7	25.8	23.9	11.0	0.0
(2) 対象者を所得制限等で経済的に困窮している学生のみに限定する。	11.0	41.1	29.4	14.7	3.7	0.0
(3) 対象者を東京大学など難易度の高い大学の学生のみに限定する。	0.6	4.9	17.8	37.4	39.3	0.0
(4) 対象者を選ぶために、希望者に対して学力試験を行い、選抜する。	7.4	24.5	20.9	31.3	16.0	0.0
(5) 対象者は25歳未満など、年齢制限をつけて限定する。	16.0	33.1	26.4	16.6	7.4	0.6
(6) その奨学金は授業料支払にしか使えないなど利用方法を限定する。	20.9	47.2	20.2	8.0	3.7	0.0
(7) 対象者は、卒業後、どのように活躍しているか報告を義務とする。	16.0	44.2	25.8	10.4	3.7	0.0
(8) 対象者は、社会が必要とする特定の職業に就きたい者のみとする。	1.2	8.0	31.9	37.4	21.5	0.0
(9) 対象者は、自宅外から大学に進学する者のみに限定する。	1.2	6.1	32.5	36.8	23.3	0.0
(10) 国公立と私立大学では学費が異なるので、給付金額に差をつける。	9.2	47.2	27.0	9.2	6.7	0.6
(11) 現金を支給する給付型奨学金より、学費の免除・減額の方法がよい。	19.0	44.2	28.2	5.5	2.5	0.6
(12) 対象者は特別に限定せず、誰でも受けられるようにする。	6.1	28.8	27.0	25.2	12.9	0.0
(13) 対象者が、各高校から1名は必ず選ばれるような仕組みとする。	4.9	7.4	39.9	27.6	19.6	0.6
(14) 対象者は、高校が推薦することとして、高校の評価を参考にする。	6.7	33.7	36.8	11.7	11.0	0.0
(15) 対象者が大学入学後にきちんと勉強しているかは常に確認する。	22.1	56.4	16.0	3.1	2.5	0.0

単位 (%)

Q 8 国の給付型奨学金の対象者を決めるにあたって、どのような学生をその対象とするべきだと思いますか。対象者として望ましいと思うものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 高い学力を持つ者 67.5% | 7 大学院の学生 10.4% |
| 2 スポーツや芸術で高い能力を持つ者 43.6% | 8 卒業後特定の職業に就職することを誓約した者 10.4% |
| 3 福祉施設出身者など家庭環境の恵まれない者 74.8% | 9 高校が推薦した者 35.6% |
| 4 生活保護受給世帯など家庭が経済的に厳しい者 81.0% | 10 ボランティアや社会福祉など社会貢献を行った者 30.1% |
| 5 卒業後に地方に居住することを誓約した者 7.4% | 11 身体的、精神的に障害を持つ者 28.2% |
| 6 東京大学など難易度の高い特定の大学への進学者 5.5% | 12 その他（具体的に） 1.8% |

Q 9 特定の職業に就職する者（就職した者）を、給付型奨学金の受給対象とする場合、その職業として望ましいと思うものはありますか。望ましいと思うものすべてに○をつけてください。

- | | | | |
|-------------------|--------------------|-----------------|---------------------|
| 1 保育士／幼稚園教員 27.0% | 4 大学教員 9.8% | 7 医師 27.0% | 10 その他 0.6% |
| 2 義務教育の学校教員 25.2% | 5 研究機関の研究者 14.7% | 8 看護・医療職 34.4% | (具体的に) |
| 3 高校教員 23.3% | 6 介護士／福祉施設職員 30.7% | 9 自衛隊・警察官 14.1% | 11 そのような制度は不要 41.7% |

Q10 国の給付型奨学金について、**その月額**はどのくらいの金額が望ましいと思いますか。国立大学の学費が年間約 50 万円、私立大学文系が年間平均約 100 万円、理系が年間平均約 150 万円程度である現状を前提に、望ましいと思うものに番号に○をつけてください。(それぞれ 1 つに○)

	1 万円 未満	1 ～ 2 万円 程度	3 万円 程度	5 万円 程度	7 万円 程度	9 万円 程度	10 万円 以上	わ か ら な い	そ の よ う な 制 度 は 不 要	無 回 答
(1) 国立大学の自宅生	4.3	12.9	33.7	26.4	4.9	0.6	1.2	11.0	3.7	1.2
(2) 国立大学の自宅外の学生	0.0	5.5	11.0	40.5	16.6	4.3	6.7	11.0	3.1	1.2
(3) 私立大学(文系)の自宅生	0.6	5.5	18.4	31.9	15.3	8.0	5.5	11.0	2.5	1.2
(4) 私立大学(文系)の自宅外の学生	0.0	1.2	6.7	21.5	27.0	11.0	18.4	10.4	2.5	1.2
(5) 私立大学(理系)の自宅生	0.6	3.1	12.3	19.0	26.4	6.7	16.6	11.7	2.5	1.2
(6) 私立大学(理系)の自宅外の学生	0.0	1.2	4.3	11.7	21.5	18.4	28.2	10.4	3.1	1.2

単位 (%)

D. 今回、制度がつくられ、2018(平成 30)年度から本格的に実施される予定の大学生等に対する給付型奨学金について、貴校の状況と、この制度に対するお考えをうかがいます。(校長先生個人のお考えで結構です)。

Q11 今回制度がつくられた国の給付型奨学金は、高校在学時に受給候補者が選考される予約型となります。日本学生支援機構の「給付奨学生採用候補者の推薦に係る指針(ガイドライン)」に基づいて、各高校が「推薦基準」を策定し、各校から日本学生支援機構に候補者を推薦することとなっています。この「推薦基準」の作成について、貴校はどのような状況にありますか。あてはまるものに○をつけてください。(○は 1 つ)

1	2	3	4	5	
策定済み	現在、 策定のために 内容を検討中	未着手だが 今後策定予定	策定予定は ない	策定が必要で あることを 知らなかった	無回答
44.8 %	12.3 %	19.0 %	9.2 %	11.0 %	3.7 %
↓		→ (Q13へ)			

(Q12 は、前問(Q11)で独自の制度が「1. 策定済み」「2. 現在、策定のために内容を検討中」とされた方にうかがいます。「3. 未着手だが今後策定予定」「4. 策定予定はない」「5. 策定が必要であることを知らなかった」を選ばれた方は、Q13にお進みください。)

Q12 給付奨学金の「推薦基準」の作成につきまして、作成のなかで困難に感じたことや課題に感じたことはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

非該当 : 42.9 %

1 学習成績の選考基準の設定	11.1% 【19.4%】	6 ガイドラインがあいまい・抽象的であること	14.7% 【25.8%】
2 学習成績以外の選考基準の作り方	21.5% 【37.6%】	7 モデルや参考例が示されていないこと	7.4 % 【12.9%】
3 選考体制の作り方	9.8% 【17.2%】	8 推薦期日まで時間が短いこと	14.7% 【25.8%】
4 複数候補者があるときの優先順位の付け方	35.6% 【62.4%】	9 その他(具体的に)	3.1% 【5.4%】
5 選考手続きが教職員の業務増加・負担になること	24.5% 【43.0%】		

※本設問は、前問(Q11)で1・2を選択した場合のみが有効回答となる。そのため、全体(N=162)に対する比率とともに、本問に対する有効回答(N=92)に対する比率を【 】に示した。

Q13 日本学生支援機構が示している「給付奨学生採用候補者の推薦に係る指針（ガイドライン）」は、各学校が給付奨学金の受給候補者を推薦するにあたり、高校が作成する「推薦基準」の中に（１）～（６）の要件を含むことを求めています。これらの要件について、どのように思われますか。

（それぞれ１つに○）

	賛成である	どちらかといえば賛成である	どちらともいえない	どちらかといえば反対である	反対である	無回答
（１）対象者を、①家計が住民税非課税、②生活保護受給、③社会的養護を必要とする者に該当することを前提（限定）としていること	28.2	36.8	17.8	4.3	3.7	9.2
（２）個々の学校の教育目標にあわせて高い学習成績を満たしていることを確認すること	27.0	41.7	18.4	1.8	1.8	9.2
（３）成績だけでなく総合所見や出欠状況を加味して選考すること	28.2	50.3	10.4	1.2	0.6	9.2
（４）高等学校での生徒の成長過程に着目して選考すること	19.6	39.9	24.5	3.1	3.1	9.8
（５）管理職と担任以外の教員を含めた複数名で選考すること	34.4	38.0	16.6	0.6	1.2	9.2
（６）進学の見込みや目的・進学後の人生設計を確認・評価すること	28.2	42.9	18.4	0.0	1.2	9.2

単位（％）

E. 大学に関する政策動向について、お考えをうかがいます（校長先生個人のお考えで結構です）。

Q14 大学・高等教育に対する国の政策や教育改革の動向について、どのように思われますか。それぞれについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。

	賛成である	どちらかといえば賛成である	どちらともいえない	どちらかといえば反対である	反対である	無回答
（１）大学入試センター試験の見直しと共通試験での記述式問題の導入	14.7	43.2	25.2	8.0	6.1	1.8
（２）給付型奨学金の新設による貧困家庭出身学生の進学機会の拡大	33.1	54.6	8.6	1.2	1.2	1.2
（３）都市部（東京都23区内）での大学新設・増設の禁止・規制	13.5	25.2	40.5	12.9	6.7	1.2
（４）職業に直接つながる内容を教える「専門職大学」制度の創設	9.2	27.0	42.3	13.5	6.7	1.2
（５）東京にある大学の地方への移転の推進	8.0	23.3	49.1	12.9	5.5	1.2
（６）学生募集で定員割れをしている大学（主に私立大学）の統廃合の推進	19.6	40.5	33.7	3.7	1.2	1.2
（７）推薦入試・AO入試など、一般学力試験以外の入試選抜の拡大	9.2	20.9	37.4	23.3	8.0	1.2
（８）教育国債や税金を用いた高等教育の無償化（授業料の無料化）	17.8	29.4	30.7	11.7	8.6	1.8
（９）授業料後払い制度の新設により大学在学中の高等教育費用の無償化	6.1	20.9	46.0	19.0	6.7	1.2
（10）地方大学を職業教育の場として仕事に役立つ教育を中心に転換	2.5	10.4	46.0	25.2	14.7	1.2

単位（％）

Q15 日本の大学の現状、教育費や奨学金制度について、お考えがありましたらご自由にお書きください。

記入数：27件（16.6％）

ご協力、ありがとうございます。同封の返信用封筒（切手不要）にて、8/10（木）までにご投函ください。